

奈良市民だより

昭和37年12月25日印刷
昭和38年1月1日発行

奈良市民だより (第74号)

発行所 奈良市役所
編集兼発行人 秘書課長 宮武一二三
印刷所 共同印刷工業株式会社

市役所の執務時間は

「職員 勤務時間などに関する条例の一部」が改正されました
38年1月4日から市役所の執務時間が次のとおりになりました。

執務時間——()内は改正前の時間——

11月1日～3月31日	4月1日～10月31日
平日 前 (8時30分) 後 5時00分 8時50分	平日 前 8時30分 後 5時00分
土曜 前 (8時30分) 後 0時30分 8時50分	土曜 前 8時30分 後 0時30分
	日曜、祝日は休日

正しい政治を公明選挙で

1月30日 知事選挙
4月17日(予定) 県議会議員選挙
4月30日(予定) 市長選挙
市議会議員選挙
7月中旬(予定) 農業委員会委員選挙

政治と生活のつながり

わたしたちの日常生活は、政治と密接なつながりをもっています。税金や物価が高くなったり安くなったりするの、道路や橋をなおしたり、学校や住宅を建てたりすることも大きく政治にかかっています。この政治を行なうものはわたしたちが選挙した代表者です。自分達の生活が向上するか低下するかは、選挙によってきまるとも言えます。ここに民主政治——すなわち人民の人民による人民のための政治——の意義があります。

昭和38年は早々から次々に数多くの選挙が行なわれます。

どうかこれからの選挙に公明選挙を貫徹して、立派な我々の代表者を選出し、正しい政治、明るい社会を發展させて行かねばならないと思います。

これからの選挙について有権者の皆様には是非知っておいて頂きたい事柄を説明いたします。

選挙人名簿に名前がのっていないと投票はできません。

どの選挙でも同じことですが、1月30日執行の知事選挙におきましても選挙人名簿に名前がのっていないと、たとえ法律的に選挙権があっても投票はできません。

本年の選挙に使う選挙人名簿は去る37年9月15日現在で調製したもので、既に3ヶ月以上市内に居住し、又37年12月20日までに満20才に達した人だけが登録してあります。

その後の転入者や成人者はこのままでは投票できません。

それ故選挙のある毎に補充選挙人名簿を作ります。

1月30日行なわれる知事選挙については次に該当する人が補充選挙人名簿登録の申請を出ることが出来ます。

- 基本選挙人名簿にのっていないで
- 昭和18年1月11日以前に生れ
- 昭和37年10月10日以前から引続いて市内に居住している人です

さて1月13日までに投票所入場券とともに各世帯に配布いたします補充選挙人名簿登録申請用紙に記入して、転入期日を証明できる書類(例えば郵便物、電気・水道・ガス・家賃等の領収書など)を添え、奈良市選挙管理委員会事務局(市役所3階

※ 才となり、新しい有権者に加わります。

これから行なわれる選挙には補充選挙人名簿に登録申請することが出来て初めて投票することができるようになるのであります。

知事選挙の投票所 入場券について

この入場券は1月13日頃までに配布を完了することになっていきますから、その頃までに入場券を受取られない方はお問合せ下さい。

古くから奈良市に住んでいる方で37年9月15日以後に市内で転居された方は元の住所と「いつ」「どこ」へ移って来たかという事を申し出て下されば、なるべくその場で入場券を

ら、ぜひその際は来聴せられまよう、候補者をよく見定めて下さようおすすめいたします。

〇立会演説会

1月11日(金) 午後7時30分から市庁舎別館

みなさん ありがとうございます。

去る10月1日から全国一斉に行なわれました共同募金運動に当りましては、奈良市におきましても市民のみなさんを初め、各商社、事業所など有志のご理解とご協力によりまして、総額3,207,490円(12月20日現在)の募金を達成いたしました。昭和37年の奈良県の募金目標は1,

昭和37年12月

1月18日(金) 午後7時30分から済美小学校講堂

1月27日(日) 午後7時30分から佐保小学校講堂

〇 〇 〇

奈良市共同募金会 会長 谷井友三郎
奈良市長 高橋正次



高橋正次

私は旧に倍する市民各位のご理解、ご援助、ご指導によりまして、一層健康に留意し、努力いたしたいと存じます。年頭に当りまして市民各位のご健康、ご多幸を衷心よりお祈り申し上げ、ご挨拶といたします。

昭和三十八年元旦

歳月の過ぎ行くを共に益々複雑多岐となつてまいります地方自治において、限りある財源で限りなく要求される福祉施設の完成へと進みますには大規模都市を建設してこれが趣旨貫徹を期することを唯一途として邁進せねばなりません。勿論その前途には幾多の障害があるものであります。要は市民福祉の増進を願う奈良市の恒久的繁栄を期するためにそのように努力精進したいと思ひ、信じております。

私は旧に倍する市民各位のご理解、ご援助、ご指導によりまして、一層健康に留意し、努力いたしたいと存じます。年頭に当りまして市民各位のご健康、ご多幸を衷心よりお祈り申し上げ、ご挨拶といたします。

昭和三十八年元旦

電(7001番)へ提出して下さい。

知事選挙についての補充選挙人名簿登録申請期間は1月11日から同月16日までです。

成人式に出席しても すぐに選挙権がある と誤解してはなりません。

奈良市の成人式に出席したものはすべて満20才に達し、選挙権があると早合点してはなりません。

奈良市では、昭和38年中に満20才に達する人を成人式に招いております。

やがて誕生日が来ますと満20

お渡しするようにいたします。しかし37年6月16日以後に他所から奈良市に転入した方は補充選挙人名簿に登録申請をしなければ入場券は発行できません。

知事選挙立会演説会のお知らせ

知事選挙には選挙公報も配布されますが、何よりも候補者の人格や公約がわかるのは立会演説会でしょう

こんどの知事選挙には是非立会演説会に出席したいという人々の声が今からさかんに聞かれますが、その立会演説会は次のとおり開催されます。又特に会場には場外マイクなどの用意をして準備いたしますか、

公明選挙の推進にご協力を

奈良市選挙管理委員会と奈良市公明選挙推進連盟では市内の自治会、婦人会、民生委員、学校PTA役員その他の有識者から選ばれた公明選挙推進協力委員850名が集合して去る11月30日市庁別館で推進大会を開催

し知事選挙や統一地方選挙をひかえて公明選挙運動の方針を決議し、又つぎのとおり宣言を行ないました。一般有権者も候補者も本運動に成果を収めることができますようご協力下さい。

宣 言

選挙は政治の基盤であって、選挙が公明に行われることは民主政治や地方自治のため欠くことのできない要件である。

然るに我が国の選挙界は、依然として金権情実による弊風が跡をたないのみか、特に地方選挙にあっては事前運動や供応買収も少なくならず、その上、町内、部落会、各種職域団体においてはいわゆる推薦に名を借りて、特定候補のために投票を余儀なくせしめ、或いは諸般の会合や祭礼に候補者から金銭酒食を出さしめる等の土俗弊習、今尚盛んに行われていることはまことに遺憾とするところである。

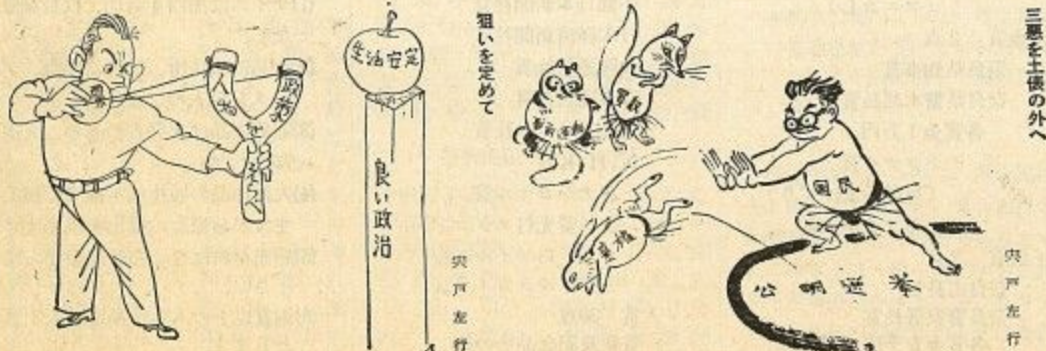
明春は一月に知事選挙、四月に統一各種地方選挙が行われるので、この機会にかかる弊風を追放し、選挙人の一人一人が主権在民の民主政治の原理に徹して、金権情実に惑わず、何人からも拘束を受けない自覚のある投票によって、公明選挙を確立するよう次の運動を広く強く展開することを宣言する。

記

1. 候補者にムリをいわない運動
1. 立会演説会・個人演説会・選挙公報等をよく聞き、よく見て、よく選ぶ運動
1. 棄権せず有権者の各自が自覚のある投票をする運動

昭和37年11月30日

奈良市公明選挙推進大会



新春所懐



賀春

奈良市表彰条例による 晴れの被表彰者は128名

市政有功者 9名
功 勞 者 108名
善 行 者 11名

去る11月3日文化のよき日に奈良市では市政に功績のあった人々や市民の模範となる篤行者の表彰式を行いました。

この表彰は奈良市表彰条例に基づくものでありまして、今回は次の方々が表彰をうけられました。

▲市政有功者

(敬称略、順不同)

▲多年市議会議員としての功績による

善 提 町 中 野 正 夫
角 振 町 谷 井 友 三 郎
押 上 町 大 橋 捨 次 郎
東ノ阪町 谷 田 岩 太 郎

▲多年農委員としての功績による

古 市 町 中 尾 時 一
鹿 野 園 町 山 中 正 治
大 安 寺 町 武 野 芳 太 郎

▲多年公平委員、選挙管理委員としての功績並びに主食配給制度の運営に貢献した

西 新 屋 町 松 山 正 太 郎

▲多年民生委員としての功績並びに自治会長、保護司として貢献した

紀 寺 梅 園 町 山 本 徳 治

▲功 勞 者 (敬称略、順不同)

▲多年長欠児童の絶滅に尽し、又地元の社会教育の振興普及に対する功績による

西 八 条 町 西 口 広 造

▲多年地元小学校育友会長等として文教の発展、公益の増進に尽した

三 碓 町 藤 本 嘉 一

▲多年スポーツの振興に尽し市民体位の向上に貢献した

北 半 田 町 伊 丹 徳 三 郎

▲多年消防分団長としての功績並びに主食配給業務の向上発展に尽した

白 毫 寺 町 山 本 清 補

▲多年消防団に尽した功績による

小 川 町 北 野 音 吉

▲多年に亘り市に奉職、重要な職に就き市政の運営に貢献した

芝 辻 西 町 永 友 友 三 郎

高 畑 町 鈴 木 芳 枝 虎

肝 塚 町 衣 笠 清 次 郎

新 在 家 町 大 島 源 次 郎

中 院 町 本 吉 栄 吉 郎

西 新 在 家 町 中 島 富 三 郎

大 和 郡 山 市 山 口 定 吉 郎

中 新 屋 町 中 川 俊 一 郎

陰 陽 町 丸 岡 吉 和 郎

あやめ池北一丁目 京 極 信 太 郎

川 久 保 町 山 田 音 次 郎

▲多年自治会長として市政に貢献した

東 寺 林 町 谷 口 貫 二 郎

西 寺 林 町 中 村 常 治 郎

今 御 門 町 橋 村 嘉 郎 二 郎

南 市 町 打 田 一 治 郎

元 林 院 町 網 谷 政 治 郎

下 御 門 町 白 井 芳 太 郎

寺 町 一 箭 武 一 郎

馬 場 町 奥 村 盤 夫 郎

西 御 門 町 安 藤 迅 夫 郎

林 小 路 町 笹 川 正 雄 郎

登大路一番町北通 中 西 保 之 郎

登大路四番町 島 田 常 次 郎

田 中 町 西 田 安 吉 平 郎

御所馬場町 棚 橋 英 夫 郎

北 天 満 町 並 川 清 忠 郎

東 大 路 町 並 川 清 忠 郎

本 薬 師 町 直 井 政 治 郎

関 伽 井 町 藤 本 浅 次 郎

善 提 町 山 上 町 堀 野 喜 三 郎

紀 寺 南 方 町 佐 合 亮 太 郎

幸 町 松 本 巳 之 吉 郎

十 輪 院 町 喜 田 菊 治 郎

中 新 屋 町 内 田 仙 次 郎

芝 新 屋 町 中 島 忠 一 郎

中 辻 北 方 町 中 尾 喜 市 郎

肘 塚 町 真 久 保 儀 治 郎

西 新 屋 町 中 村 慶 治 郎

東 木 辻 町 猪 岡 平 右 衛 門 郎

瓦 堂 町 中 村 政 太 郎

見 平 町 永 井 テ イ 郎

浄 言 寺 町 高 村 辰 吉 郎

京 終 地 方 西 側 松 井 達 雄 郎

南 京 終 南 町 西 井 三 郎

南 京 終 西 町 染 野 政 雄 郎

南 風 呂 町 三 輪 幸 次 郎

八 軒 町 上 田 庄 太 郎

南 魚 屋 北 町 永 井 正 夫 郎

陰 陽 町 乾 田 清 蔵 郎

南 魚 屋 中 町 山 田 直 蔵 郎

川 久 保 町 桜 井 達 三 郎

難 司 東 町 秋 田 幸 造 郎

川 上 西 町 山 村 藤 一 郎

東 之 阪 一 丁 目 久 保 田 仁 章 郎

興 善 院 町 久 保 田 健 治 郎

般若寺町 尾 田 松 治 郎

春日野町 尾 田 松 治 郎

三 笠 山 麓 町 脇 坂 駿 一 郎

大豆山突抜町 安 井 治 一 郎

花 芝 町 吉 本 治 郎

宿 院 町 八 尾 熊 治 郎

鍋 屋 町 飯 田 只 雄 郎

半 田 突 抜 町 池 田 幾 治 郎

後 藤 町 松 井 茂 雄 郎

西 包 永 町 川 辺 菊 松 郎

多 門 町 高 木 太 郎

阪 新 屋 町 須 山 敬 三 郎

葛 蒲 池 町 小 林 房 次 郎

西 新 在 家 町 柏 田 久 太 郎

芝 辻 プ ラ ス 町 田 村 俊 夫 郎

船 橋 町 長 田 清 三 郎

北 市 中 町 石 田 雄 彦 郎

北 市 新 道 町 石 田 雄 彦 郎

三 輪 幸 次 郎

上 田 庄 太 郎

永 井 正 夫 郎

乾 田 清 蔵 郎

山 田 直 蔵 郎

桜 井 達 三 郎

秋 田 幸 造 郎

山 村 藤 一 郎

久 保 田 仁 章 郎

久 保 田 健 治 郎

尾 田 松 治 郎

尾 田 松 治 郎

脇 坂 駿 一 郎

安 井 治 一 郎

吉 本 治 郎

八 尾 熊 治 郎

飯 田 只 雄 郎

池 田 幾 治 郎

松 井 茂 雄 郎

川 辺 菊 松 郎

高 木 太 郎

須 山 敬 三 郎

小 林 房 次 郎

柏 田 久 太 郎

田 村 俊 夫 郎

長 田 清 三 郎

石 田 雄 彦 郎

石 田 雄 彦 郎

三 輪 幸 次 郎

上 田 庄 太 郎

永 井 正 夫 郎

乾 田 清 蔵 郎

山 田 直 蔵 郎

桜 井 達 三 郎

秋 田 幸 造 郎

山 村 藤 一 郎

久 保 田 仁 章 郎

久 保 田 健 治 郎

尾 田 松 治 郎

尾 田 松 治 郎

脇 坂 駿 一 郎

安 井 治 一 郎

吉 本 治 郎

八 尾 熊 治 郎

飯 田 只 雄 郎

池 田 幾 治 郎

松 井 茂 雄 郎

川 辺 菊 松 郎

高 木 太 郎

須 山 敬 三 郎

小 林 房 次 郎

柏 田 久 太 郎

田 村 俊 夫 郎

長 田 清 三 郎

石 田 雄 彦 郎

石 田 雄 彦 郎

三 輪 幸 次 郎

上 田 庄 太 郎

永 井 正 夫 郎

乾 田 清 蔵 郎

山 田 直 蔵 郎

桜 井 達 三 郎

秋 田 幸 造 郎

山 村 藤 一 郎

久 保 田 仁 章 郎

久 保 田 健 治 郎

尾 田 松 治 郎

尾 田 松 治 郎

脇 坂 駿 一 郎

安 井 治 一 郎

吉 本 治 郎

八 尾 熊 治 郎

飯 田 只 雄 郎

池 田 幾 治 郎

松 井 茂 雄 郎

川 辺 菊 松 郎

高 木 太 郎

須 山 敬 三 郎

小 林 房 次 郎

柏 田 久 太 郎

田 村 俊 夫 郎

長 田 清 三 郎

石 田 雄 彦 郎

石 田 雄 彦 郎

三 輪 幸 次 郎

上 田 庄 太 郎

永 井 正 夫 郎

乾 田 清 蔵 郎

山 田 直 蔵 郎

桜 井 達 三 郎

秋 田 幸 造 郎

山 村 藤 一 郎

久 保 田 仁 章 郎

久 保 田 健 治 郎

尾 田 松 治 郎

尾 田 松 治 郎

脇 坂 駿 一 郎

安 井 治 一 郎

吉 本 治 郎

八 尾 熊 治 郎

飯 田 只 雄 郎

池 田 幾 治 郎

松 井 茂 雄 郎

川 辺 菊 松 郎

高 木 太 郎

須 山 敬 三 郎

小 林 房 次 郎

柏 田 久 太 郎

田 村 俊 夫 郎

長 田 清 三 郎

石 田 雄 彦 郎

石 田 雄 彦 郎

三 輪 幸 次 郎

上 田 庄 太 郎

永 井 正 夫 郎

乾 田 清 蔵 郎

山 田 直 蔵 郎

桜 井 達 三 郎

秋 田 幸 造 郎

山 村 藤 一 郎

久 保 田 仁 章 郎

久 保 田 健 治 郎

尾 田 松 治 郎

尾 田 松 治 郎

脇 坂 駿 一 郎

安 井 治 一 郎

吉 本 治 郎

八 尾 熊 治 郎

飯 田 只 雄 郎

池 田 幾 治 郎

松 井 茂 雄 郎

川 辺 菊 松 郎

高 木 太 郎

須 山 敬 三 郎

小 林 房 次 郎

柏 田 久 太 郎

田 村 俊 夫 郎

長 田 清 三 郎

石 田 雄 彦 郎

石 田 雄 彦 郎

三 輪 幸 次 郎

上 田 庄 太 郎

永 井 正 夫 郎

乾 田 清

奈良市の人口

(昭和37年11月末調)

世帯数	34,857
人口	140,223
(男67,563 女72,660)	

立 候 補 者 数	2人	10人	無 投 票	45人
最 高 者 の 得 票 数	33,010票	9,165票		2,695票
最 低 者 の 得 票 数	20,426票	4,799票		367票
投 票 者 数	53,890票	65,861票		69,578票
投 票 率	65.45%	80.09%		84.18%